

なごや子ども応援委員会職員を目指す皆さんへ

なごや子ども応援委員会とは、いじめ、不登校や問題行動など学校が抱える課題に対応するため、市内の学校に設置している児童生徒の支援組織です。

私たちの仕事に興味を持ち、なごや子ども応援委員会の職員を目指そうとされている皆さんに、理解を深めていただけるよう作成しました。

応募の参考にしてください。

なごや子ども応援委員会の職務概要と職員の声

スクールカウンセラーAさん

① こんな仕事をしています

職員室に席を置き、先生方との情報共有、保護者・生徒との面談、登下校時のあいさつ活動やスクールランチの時間での日常的な関わりを通して、子どもたちの小さな変化を見逃さないようにしています。思春期を迎えた子どもは、自分の弱みを出しにくく、表に見えている部分と内面は違うことがあります。

また、多様な価値観を認め、子どもを孤立させないようにすることも大切です。子ども全員を視野に入れて、問題を未然に防止するための授業を計画することなども、先生方と協力しながら日々取り組んでいます。

事務局校以外の学校ではカウンセラーが単独で配置されていますが、判断に迷ったときや他職種と連携する必要がある場合には、事務局校のチームで検討・対応しています。

② こんなことにやりがいを感じます

登下校の「あいさつの時間」を大切にしています。集団の中で目立たない子どもの変化や行動から子どもの悩みを発見できた時や、あいさつをなかなか返してくれなかった子が「おはようございます」と返してくれた時に大きな喜びを感じます。子ども・保護者や先生との関係を築きながら一緒に喜びを分かち合う、そんな幸せが多く詰まった仕事だと思っています。

○ある一日のスケジュール

7:55 朝のあいさつ運動・靴箱点検
9:30 他校生徒の登校支援
(家庭訪問し、一緒に登校。その後学習見守り)
11:00 区役所にて情報共有・検討
昼 生徒とスクールランチ
13:30 非常勤SCと情報交換
14:30 先生の相談
15:00 校門にて下校のあいさつ
(相談を受けるときもあり)
16:00 生徒と個別面談

(17:00 担任と家庭訪問)
※時間外勤務をすることもあり

スクールソーシャルワーカーBさん(事務局校勤務)

① こんな仕事をしています

不登校やいじめ、暴力行為など子どもが抱える悩みは複雑化し、学校だけでは対応が困難なケースも増えてきています。家庭が経済的に困窮していたり、家庭内で虐待が起こっていたりすることもあり、学校、家庭、地域の関係機関が連携して対応にあたれるよう、調整を図っています。

また、普段から関係機関の活動に協力し、福祉関係者や地域の方に子ども応援委員会や学校のことを伝えるなど、関係づくりにも努めています。地域や家庭での子どもたちの様子を知り、対応に生かすことができるよう、児童館や地域の関係機関を訪問したりもしています。

② こんなことにやりがいを感じます

子どもと話すのは純粋に楽しいですし、子どもの日常生活を見守りながら支援でき、変化を目の当たりに感じられるのは常勤職員ならではの喜びだと思います。対応した生徒から、卒業後に元気に頑張っている様子を知らせる手紙が届いたりするととてもうれしいです。また、学校内の先生方と作った支援体制が効果を上げたり、関係機関とのネットワークが出来ていくなど、関係者どうしを繋ぐ役割が果たせたときは、スクールソーシャルワーカーとしてのやりがいを感じます。

○ある一日のスケジュール

8:00 朝のあいさつ運動
8:30 チーム会議(ブロック内の職員が全員参加する会議)でケースの報告・対応の検討
昼 生徒とスクールランチ
13:00 対応記録の作成
14:00 関係機関訪問(施設の見学、区役所にて福祉サービスの資料の受け取り)
15:00 小学校でのケース会議に参加、情報共有
16:00 事務局校に戻りチームに報告

(17:00 先生方と情報共有)
※時間外勤務をすることもあり

公募の詳細は別紙「採用案内」をご覧ください。